

質疑要旨 平成29年度に実施した施策評価において、  
事務事業のスクラップ・アンド・ビルドにつながる事例  
はあるか。

---

### 答弁要旨

平成29年度に実施した施策評価において、事務事業のスクラップ・アンド・ビルドにつながった一例を申し上げますと、施策08の障害者支援におきましては、「移動支援事業」が、他市と比較して給付費が多額となっていたため、自立支援協議会の皆様方と協議する中で、市の考え方にご理解いただき、合わせて、施策評価での議論等も踏まえる中で、障害者の就労実習の機会や支援の充実、また、手話及び、ろう者に対する理解の促進等を目的とした、手話言語の普及啓発といった、市民ニーズや課題に対応するための、事業の立案を図ったものでございます。

(次ページへ続く)

また、「施策06 地域福祉」におきましては、コミュニティの支え手の確保が課題となっている中で、「支え合いの人づくり支援事業」では、新たな地域福祉活動の担い手を育むことを目的に、高校生や大学生が学びを通して、尼崎市市内において福祉に関する地域課題の解決に向けて市民活動団体と協働する取組を新たに進めております。

以上

質疑要旨 施策評価結果の作成については、いつから着手し、どの程度の人数や時間を費やしたのか。

---

答弁要旨

施策評価結果の作成につきましては、前年度の2月末から、各局において評価表の作成に着手し、5月中旬から6月初旬にかけて、直接市長と担当局において、評価表の一次評価に係るヒアリングを実施しております。

特に平成30年度は、6月下旬から7月初旬にかけて、「主要取組項目」のうち、他施策との連携・調整等が喫緊に必要な項目や、施策に属さない「行政運営」について、市長と関係部局が一堂に会した協議を行い、最終的には、「平成30年度施策評価結果」として、8月中旬に公表しているところでございます。

従いまして、この施策評価につきましては、全16施策と施策に属さない「行政運営」も対象としておりますことから、全ての関係部局において、取り組んできたところでございます。

以上

質疑要旨 施策の目標や抱える課題の担当者までの共有方法はどうか。どの程度職員が記載内容を認識しているのか。

---

### 答弁要旨

5月中旬から6月初旬にかけて実施いたします「一次評価」の確認に際しましては、直接市長と担当局とでヒアリングを行う中で、前年度の取組の成果と課題の振り返りを実施していることから、主担当局長や所属長はもちろんのこと、施策評価表の記載内容に係る関係職員は、施策の目的や課題について認識しており、市長による最終評価である「施策評価結果」に至っております。

議員ご指摘のとおり、施策評価の目的の一つに、「意識の共有」を掲げておりますことから、引き続き、庁内の研修等を通じて、職員の意識の共有を図る中で、適切な指標の設定や、文書量が多く読みづらいといった課題等についても解消を図るなど、今後におきましても、施策評価の精度を高めてまいりたいと考えております。

以上

質疑要旨 「担当局評価」と「施策評価結果」との関係について具体的に説明されたい。また、「施策評価結果」の内容について、市長と担当部局との間でしっかりとした議論はなされたのか。

---

#### 答弁要旨

「担当局評価」は、施策の主たる担当局において、これまでの成果と課題の振り返りを行う「一次評価」であり、担当局が市長と、その取組状況等についてヒアリングを行い、作成しております。

また、「施策評価結果」については、市長による最終評価でございますが、担当局と取組状況等に係る再度のヒアリング等を経て、作成しているところでございます。

そうしたプロセスを踏まえまして、「施策評価結果」を作成しておりますことから、市長と担当局の間で内容の共有は果たされていると認識しております。

以上

質疑要旨 実発送数 2,481 人、有効回答数 673 人、有効回答率 27.1%という結果をどう評価しているか。

---

### 答弁要旨

市民意識調査の有効回答数につきましては、ご指摘のとおり673人でございますが、本市の人口を勘案いたしますと、統計学的には400人からの回答を得られれば有効だと言われておりますので、データといたしましては必要数を確保できていると考えております。

必要な回答数を確保する手法としましては、未回答者に返信を促す手紙を再度送付し回答率を上げるといった手法や、当初の送付数を増やすといった手法がありますが、本市の市民意識調査は、総合計画読本を同封するなど、総合計画の周知もその目的としていることから、より多くの方に送付するといった手法を用いております。

また、住民基本台帳上の年齢構成にあわせた回答を得るため、回答率の低い若年層に対し多めに送付するなどの工夫をしておりますが、依然として回答率が低い傾向が見られますので、その改善に向けた有効な手法等について検討していく必要があると考えております。(以上)

質疑要旨 市政に対する「満足」や「不満」といった意思表示を行わないなど市民意識調査の有効回答率の低い現状をどのように認識しているか。

---

### 答弁要旨

有効回答率27.1%という結果は、さきほど、ご答弁申し上げましたとおり、アンケート手法が影響しているものですが、いずれにいたしましても、こういった市民意識調査なども含め、市民の皆様が市政へ関心を持っていただき、より多くの方に参画していただくことは非常に重要であると考えております。

そういった中で、市政に関する情報をわかりやすく、タイムリーに発信し、しっかりと市民の皆様と共有することで、市政を身近に感じていただくとともに、市民意識調査の回答率の向上はもちろんのこと、市民の皆様のご意見を聞く制度の一つである「市民意見聴取プロセス制度」について見直しを進めるなど、市民の皆様が市政への関心を高め、積極的に市政に参画していただけるよう、引き続き取り組みを進めてまいります。

以上

質疑要旨

飯田市派遣の背景とその成果、活かし方について

答弁要旨

飯田市の公民館につきましては、住民の身近な地域課題、生活課題に対する学習や交流を通じて、住民の主体的な活動を支援し、地域の特色を生かした魅力ある地域づくりの一端を担っており、また、市民協働の姿勢を学ぶ職員自らのキャリアアップの現場にもなっております。

そうした点に関しては、地域振興体制の再構築を進め、行政の地域への向き合い方を大きく変えていこうとする本市にとって、大変参考になるものと考えております。

飯田市におきましては、これまで、こうした取組をモデルとして自治体間での共同研究を実施するなど、地域を支える自治体の在り方を広く発信する活動も行われており、本市もこれに参加し、ともに学んできた経緯がございます。

(次ページに続く)

昨年度から、そうした先進的な公民館活動を展開している飯田市へ、地域振興センター職員を派遣しており、派遣された職員は、あくまで住民が主体であることを念頭に地域に入り、職員のあるべき意識や姿勢など多くを地域から教えられているものと考えております。このような体験をもとに、本市に帰ってからは、積極的に地域に入り、自ら実践活動に活かすよう努めて  
おり  
ます。

今後は、さまざまな機会を通じて、他の職員とも共有化を図る中で、こうした職員の行動事例や取組姿勢等を基に、地域に根差した思考が全庁的に根付いていくよう取り組んでいくこととしております。

以 上

辻議員 1008 作成部局 ひと咲きまち咲き担当局 No.1

質疑要旨 各地域にある観光資源にもしっかりと目を向け、予算を割り振って整備し、市内全域を視野に入れ、周遊できる観光施策を構築してもらいたい。

---

### 答弁要旨

観光地域づくりの推進にあたっては、市内に点在する様々な観光資源の持つ魅力を市内外に広く発信し、多くの方に尼崎のまちを訪れていただけるよう取組を進めていく事が重要であると認識しております。

まずは、尼崎市が観光地であるとの認知度を高める必要があるため、マスコミで大きく取り上げられ、注目度が高い尼崎城の再建を中心に、阪神尼崎駅地区周辺において都市再生に係る国庫補助を活用した整備を行うとともに、観光施策の重点取組地域として施策展開してまいります。

観光地域づくり推進指針でお示ししているとおり、これらの取組により、尼崎市への興味・関心を高めるとともに新たな都市イメージの定着を図り、その進捗状況や集客状況も踏まえながら、重点取組地域から他のエリアへと順次拡大し、市内での周遊施策に取り組んでいくこととしております。

(以上)

## 質疑要旨

どの災害でどのような課題が具体的に見えたのか。

---

## 答弁要旨

今年度に入りましてからは、大阪府北部地震に始まり、平成30年7月豪雨、相次ぐ台風の上陸と、日本各地で災害が頻発しております。

そうした状況の中、本市でも様々な対策を行ってきたところでございますが、本市の災害対応に関する課題認識といたしましては

- ① 災害情報の発信のあり方
- ② 様々な災害事象に備えるための防災配備態勢の整備
- ③ インフラ事業者をはじめとする関係機関との連携強化

等を認識しているところでございます。

こうした課題を踏まえ、災害対応力の向上により一層取り組んで参りたいと考えております。

以上